

特116

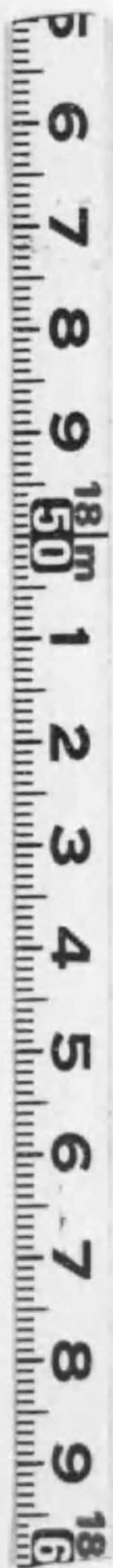
717

地拍子附  
大小鼓太  
鼓手配附

清

経

内五ノ二



始



47116  
717

九月  
ワキ 淡津三郎  
ツレ 清經/妻

# 清經

二番目

考	備
(ヨイ合)	の如く黒色否強は高安流大鼓
カシ	の如く赤色は大食流小鼓
(ツア)	の如く藍色活張は葛野流大鼓
打鼓	の如く紅色は幸流小鼓
(打込)	・等の如く赤色活張及・は

観世流太鼓

## 《出ノ囃子》

次第

止ノ打切

(ヨイ合)	(ヨイ合)	(ヨイ合)	(ヨイ合)
ハ	ハ	ハ	ハ
重	重	重	重
の	の	の	の
し	し	し	し
は	は	は	は
路	路	路	路
の	の	の	の
ら	ら	ら	ら
な	な	な	な
み	み	み	み
ら	ら	ら	ら
ん	ん	ん	ん
ン	ン	ン	ン

大正  
10 6.1 9  
内交

地取

大小鼓はアシライを打つヨイ合ヲキ

詞  
これは左中將清經の亭内に仕へ申す淡

清  
經

津の三郎と申す者にては、さても頼み  
奉りし清経は、過ぎにし筑紫の軍に  
討ち負け給ひ、都へは速も帰らぬ道芝  
の、雑兵の手にかからんよりはと思し召  
しけるか、豊前の國柳が浦の沖にし  
て、更け行く月の夜船より身を投げ空  
しくなり給ひては、又船中を見奉れば、時

形見に鬘の髪を遺し置かれては、間が  
ひなき、余助かり、形見を持ち只今都

へ上りて

道行上音

のほどは、

トリ

ひなのすま居住

に、別れなれエカ切

ひなのすま居住

に、別れなれて、

たまたまかへるふりさとのら故郷

(イ) (ロ)

むーかーしーのーはーアトるーにー引きかへーて

エ  
カ

いーまはーもーのー憂きあーき言れーて

はーやしーぐれ降るーたびごらもー

いをるーるーそーでーのー身のはてをー

しーのーびーしーのーびーにーのーぼりけエガ

しーのーびーしーのーびーにーのーぼりけエガ

(イ)

(ロ)

(ハ)

(ニ)

(ホ)

(ヘ)

詞

急ぎの程に、これははや都に著きては、

如何に案内申しは、筑紫より淡津の三

郎か来りては、まれば、津申しへ

なツレに淡津の三郎サガと申すか。人までもなし

祇方へ来りては、きて只今は何のため、津

使にてあるぞ、さんワキボ面目ホクもなき、津

使ツレに来りては、面目ツレもなき、津使とは。

精 經

三

若し汝遁世にてあるか ワキ いや汝遁世にて  
も汝瘥なく ツレ 過ぎにし筑紫の軍にも  
尙恙なきとこそ聞きつるに ワキ さん ツレ 過  
ぎにし筑紫の軍にも尙恙尙瘥なく ツレ  
ひしが、清経心に思し召すやうは都へは  
逆も帰らぬ道芝の、雜兵の手にかからん  
よりはと思し召されけるが、豊前の國柳

が浦の沖にして、更け行く月の夜船ま  
り身を投げ空しくなり終ひて ツレ

ツレ 上音 拍子 合はす  
なツレに身を投げ空しくなり給ひたるツレとや  
恨めしやせめては討たれ若しは又、病の  
床の露とも消えなば、かなしとも思ふ  
べきに、われと身を投げ給ふ事、偽なり  
つるかねとかなげに恨みて、もそのかひ

のなきせとなるこそ悲しけれ

地下歌 なにごとヲも トリ

はか—アなかり—イトける—せのなか—アの

上歌 このほどは トリ

ひ—と—月—を—つ—つ—む—わがや—どの—の

ひ—と—月—を—つ—つ—む—わがや—どの—の

か—き—は—の—す—す—き—吹—く—か—ぜ—の—

(コイ)

(コイ)

(コイ)

(コイ)

(コイ)

(コイ)

(コイ)

名—を—も—か—く—さ—で—啼—く—音—か—ア—な

な—に—か—ア—し—の—ば—ん—は—と—ぎ—す—ウ

あ—り—あ—け—づ—き—の—夜—ヲ—た—だ—と—む

精 經

名をーラもかーくさでー啼く音かアな。

又船中を見奉れば、岸形見に鬢の鬢を

遺し置かれては、これを流覽じて岸心を

慰められルへツレこれは中將殿の黒髪か

や、見れば目もくら心消え、なほか思ひの

増るぞや、見る度に心づくじのかかみなれば、

宇佐にぞ返す本の社にと

地下歌

●小 詠

早来

手むけかへして、夜もすがら、

なみだととむにおもひ寝の、

ゆめになりとも見いえたまへ

とら、寐られたぬにかアたむくる

まぐらやこひを知らすらん

まぐらやこひを知らすらん

シテ「上音」  
サシ「上音」  
明吟 拍子に合はず  
聖人に夢なじ、誰あつて堪と見る、眼裡

に塵あつて三界すほく。心頭をるすにじ  
て一坐ひらし。げにや憂しと見し世も夢。  
辛しと思ふも幻の。何れ依ある雲水の。  
行くも啼るも閑浮の故郷に。たどる心の。  
はかなさよ。うたたねに慙しき人を見て  
しより。夢てふもの。頼み初めてき。如  
何にいにしへぞ。清経こそ糸りて心へ

カッレ  
上音

不思議やなまどろむ松に見え給ふは。  
げに清経にてましませども。正しく身を  
投げ給へるが。夢ならでいかが見ゆべき  
ぞ。よし夢なりとも際姿を見みえ給ふ  
ぞ有難き。さりながら命を待たておれど  
身を捨てさせ給ふ事。は。偽なりける  
かねごとなれば。ただ恨めしう

清経



シテ<sup>上音</sup> さやうに人をも恨み給はば、おれも恨はあ  
 りあけの<sup>詞</sup> 見よとて贈りし形見をば、何  
 しに返させ給ふらん ツレ<sup>上音</sup> いやとよ形見を返  
 すとは、思ひあまりし言の葉の、見る度に  
 心づくしのかみなれば 詞<sup>シテ</sup> 宇佐にぞ返す本  
 の社にと、さしも贈りし黒髪を、あかずは  
 留むべき形見ぞかし ツレ<sup>上音</sup> 慰と心得給へる

や、慰めとての形見なればとも、見れば思  
 の形に髪 詞<sup>シテ</sup> わきて贈りしかひもなく、  
 形見を返すはごなたの恨 ツレ<sup>上音</sup> おれは捨て  
 には命のうらみ 詞<sup>シテ</sup> 互にかこち ツレ<sup>上音</sup> かこた  
 るる 詞<sup>シテ</sup> 形見ぞつらき ツレ<sup>上音</sup> 黒髪の  
 上<sup>サシ</sup> 地<sup>上音</sup> 上<sup>サシ</sup> 歌<sup>平乗</sup> からみい をさへに 云ひ添へエ  
 詞<sup>シテ</sup> からみい をさへに 云ひ添へエ 打切

清江

(ヨイ命)

くねるなみだの涙まくらをヲ

(カケ切)

なからべトリ

(カ)

エでエふたりが逢ふ夜なれ

(ヨイ命)

どろろむらむらばひとり寝の

(カ)

ふししぶしなるぞかなしき

(ツク人)

なかなか憂げにやかた見こそ

(カ)

なかなか憂げにやかた見こそ

(カ)

(カガレ)

わするることおぼろげなり

(カ)

おぼろげなり

(カ)

おもむくもぬらすたもか

詞

お吉への事ども語つて聞せ申しゆべし。今は

恨を晴晴れルへ 拍子合はず 明吟 さてお九州山鹿の城

へも敵寄せ来ると聞きし程に取る物

も取りあへず憂もすがら高瀬船に取

精

七

地同音にや所アキラケも名を得たる。浦は並木の柳  
 陰。いと徳初トクハツの皇居を定むシテ。それより  
 宇佐八幡に所系トケ宿ヤあるべしとて地神馬  
 七疋シツ其外ソノト金銀種カネギネ種タネの捧スげ物モノ。即チち奉幣ホウヘイ  
 の為ニなるべしツレ。かやカらに申マウせば猶ナも身  
 の恨ウラミに似ニたる事コトなれども。おすがに未

だ君キミまします。清代キヨダイの境サカイや一門イツモンの果ミをも  
 見ミずして徒タラシに。所身トコロミべ人を捨スてし事コト。誠マコト  
 によしなき事コトならずや。實マコトにげにこ  
 れは御理ミコトさりながら。頼タノシなき世ヨのしるし  
 の告ツケ。謬アヤり申マウさんア。謝アガマひ給たまへ地。それも中音そもア宇  
 佐八幡ウサハチに系トケ籠カケし。様サマさマ行ユク誓チカ悔カらず。  
 数タビの頼タノシをかけまマくも。天アマくも所トコロ戸ド懐カの錦ニ

の内よりあらたなる聲を出してか  
 くばかり(フルコイ)世の中(ウラ)の宇佐(ウサ)には神(カミ)もなき  
 ものを何(ナニ)れから心(ココロ)づくしに地(ツチ)さりとて  
 好(ヨシ)ど思(オモ)ふ心(ココロ)も虫(ムシ)の音(ネ)も弱(ヤワ)り果(ハ)てぬる  
 秋(アキ)の音(ネ)かな(フネ)

はいー、ぶー、ひー、んー、さんばうわ  
ヤラハ 柔吟 平乗 シテ キテ トリ

● 獨吟  
● 初まて  
● 唯子

(ウツ) (ウツ) (ウツ) (ウツ) (ウツ) (ウツ)  
(ウツ) (ウツ) (ウツ) (ウツ) (ウツ) (ウツ)

地(チ)捨(シ)て果(ハ)てたまふ(タマフ)ところばそく  
 ていエ、いちもん(イ) (イ) (イ) (イ) (イ) (イ) (イ) (イ) (イ) (イ) (イ) (イ)  
 ば、氣(キ)をうしな(ウシナ)ひち(ヒ)か(カ)ら(ラ)をお(オ)さ(サ)し  
 てあし(アシ)よわ(ヨワ)がる(ガル)ま(マ) (マ) (マ) (マ) (マ) (マ) (マ) (マ) (マ) (マ) (マ) (マ) (マ)  
 の(ノ) (ノ)

精 經  
 ありさまた 切

●仕舞

(下リ) (フケ) (コイ合) (コイ合) (コイ合) (コイ合) (コイ合)

ヤ ラ	ヤ ナ	ン	イ チ	イ ホ	イ ウ
△ア	△ア		△ア	△ア	△ア
抑	柳		壽	保	移
な	い	あ	い	ほ	う
ぎ	ち	り	の	ら	つ
が	ち	ち	の	ら	る
ら	え	ち	あ	げ	ゆ
ら	ふ	り	き	ん	め
の	の	に	の	の	こ
あ	ふ	な	の	は	そ
ま	ね	り	も	あ	ま
か	な	か	み	ら	こ
ぜ	れ	ち	ち	の	と
エ	や	か	た	は	な
の	。	ち	。	な	れ
		。		。	エ

精 経

ヤヲトリ

おん

トリ

秋

風

甲

(コイ合) (カヤ印) (コイ合) (コイ合) (コイ合) (コイ合) (コイ合) (コイ合)

ヤ △ア	イ	カ	ヤ	
△ア	△ア	△ア	△ア	△ア
心		敬		
こ	づ	た	ハ	ク
ら	く	き	ハ	セ
の	と	む	長	下音
ら	も	か	長	下音
ち	な	ふ	門	け
ぞ	く	に	の	か
あ	あ	と	の	む
は	は	り	聞	き
な	ら	り	き	い
か	る	乗	し	か
の	ウ	り	か	ば
		て	ア	。
		い	。	

清 經

ヤヲハ

ば

や

世

中

。

七

(カ)

(シ)

(ウ)

(エ)

(オ)

(カ)

(シ)

(ウ)

(エ)

(オ)

(カ)

(シ)

(ウ)

(エ)

(オ)

(カ)

(シ)

(ウ)

(エ)

(オ)

(カ)

(シ)

(ウ)

(エ)

(オ)

(カ)

(シ)

(ウ)

(エ)

(オ)

(カ)

(シ)

(ウ)

(エ)

(オ)

(カ)

(シ)

(ウ)

(エ)

(オ)

イ 手 エ ー が ほ なる あ どの なみ し

ら さ ぎ の 羣 れ る ち ま つ 忍 れ ば ち

げ ん 氏 の う は た を な び か

か と き お を け す

き よ つ ね は

か ら ら

は ち め ん の

こ ろ に こ め て お も ふ や ら

お ら た に

こ ろ に こ め て

か と き お を け す

き よ つ ね は

か ら ら

は ち め ん の

お ら た に

こ ろ に こ め て

か と き お を け す

き よ つ ね は

か ら ら

清

江

清

江

(コイ合)  
三三

地 同音  
な 海  
お きの  
が 海  
に け  
き ぐ  
さ の  
ヲ

(コイ合)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

(新送)  
二二

ね だ  
よ ひ  
て い  
つ ま  
て エ  
か

地 同音

ね だ

よ ひ

て い

つ ま

て エ

か

ね だ

よ ひ

て い

つ ま

て エ

か

ね だ

よ ひ

て い

青  
五

地 同音

ね だ

よ ひ

て い

つ ま

て エ

か

ね だ

よ ひ

て い

つ ま

て エ

か

ね だ

よ ひ

て い

青  
五

(フケ)	(フケ)	(和)	(トリ)	(新)	(三)	(三)	(三)
ば	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い
さ	い	い	い	い	い	い	い
や	か	か	か	か	か	か	か
か	た	た	た	た	た	た	た
ね	む	む	む	む	む	む	む
も	く	く	く	く	く	く	く
つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
れ	き	き	き	き	き	き	き
ん	を	を	を	を	を	を	を
と	思	思	思	思	思	思	思

(フケ)	(フケ)	(和)	(トリ)	(新)	(三)	(三)	(三)
あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ
ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら
お	お	お	お	お	お	お	お
も	も	も	も	も	も	も	も
ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ
の	の	の	の	の	の	の	の
こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
や	や	や	や	や	や	や	や

青  
空

ト  
五

清  
空

ト  
五



(ツイ合)  
地(ハ)

南<sup>上</sup>無阿<sup>レ</sup>弥<sup>レ</sup>陀<sup>レ</sup>佛<sup>ス</sup>つ<sup>レ</sup>弥<sup>レ</sup>陀<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>い

(ツイ合)  
ヨロス

む<sup>カ</sup>へ<sup>ハ</sup>さ<sup>セ</sup>た<sup>マ</sup>へ<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>

(ツイ合)  
ツイ合

た<sup>上</sup>た<sup>上</sup>ひ<sup>ス</sup>と<sup>シ</sup>急<sup>を</sup>お<sup>サ</sup>い<sup>期</sup>に<sup>エ</sup>

(ツイ合)  
ツイ合

ふ<sup>ね</sup>よ<sup>り</sup>か<sup>つ</sup>ば<sup>と</sup>落<sup>ち</sup>じ<sup>ほ</sup>の<sup>ヲ</sup>

(ツイ合)  
トリ

そ<sup>こ</sup>トリ

(ツイ合)  
ツイ合

水<sup>イ</sup>く<sup>づ</sup>と<sup>ら</sup>ン<sup>じ</sup>づ<sup>み</sup>行<sup>く</sup>り<sup>ナ</sup>

(ツイ合)  
ツイ合

身<sup>の</sup>果<sup>て</sup>ぞ<sup>こ</sup>かな<sup>し</sup>き<sup>ナ</sup>

(ツイ合)  
ツイ合

聞<sup>く</sup>に<sup>心</sup>む<sup>く</sup>れ<sup>は</sup>と<sup>り</sup>ら<sup>う</sup>き<sup>ね</sup>に<sup>沈</sup>む<sup>涙</sup>の

(ツイ合)  
ツレ

雨<sup>の</sup>怒<sup>め</sup>し<sup>か</sup>り<sup>け</sup>る<sup>契</sup>かな<sup>な</sup>い<sup>ふ</sup>な<sup>ら</sup>く

(ツイ合)  
ツレ

なら<sup>く</sup>も<sup>同</sup>じ<sup>う</sup>た<sup>か</sup>た<sup>の</sup>哀<sup>は</sup>誰<sup>も</sup>寝<sup>ら</sup>

(ツイ合)  
ツレ

ざ<sup>り</sup>け<sup>り</sup>

(ツイ合)  
ツレ

地<sup>ホ</sup>で<sup>修</sup>羅<sup>だ</sup>ら<sup>に</sup>お<sup>い</sup>ち<sup>こ</sup>ち<sup>の</sup>

(ツイ合)  
ツレ

地<sup>ホ</sup>で<sup>修</sup>羅<sup>だ</sup>ら<sup>に</sup>お<sup>い</sup>ち<sup>こ</sup>ち<sup>の</sup>

(ツイ合)  
ツレ

た<sup>づ</sup>き<sup>は</sup>か<sup>た</sup>き<sup>あ</sup>め<sup>は</sup>あ<sup>さ</sup>き

(ツイ合)  
ツレ

た<sup>づ</sup>き<sup>は</sup>か<sup>た</sup>き

青 經 五

ト

(カケケ)  
五ツ反

つち<sup>入違</sup>はせ<sup>清</sup>いけ<sup>五ツ反</sup>んい<sup>判</sup>やま<sup>山</sup>は<sup>鐵</sup>てつ<sup>合</sup>じや<sup>城</sup>

(カケケ)

く<sup>空</sup>もの<sup>空</sup>は<sup>旗</sup>た<sup>手</sup>を<sup>下</sup>つ<sup>下</sup>いで

(カケケ)

け<sup>上</sup>ら<sup>備</sup>ま<sup>慢</sup>ん<sup>片</sup>の<sup>毎</sup>つ<sup>毎</sup>る<sup>毎</sup>ぎ<sup>毎</sup>を<sup>下</sup>そ<sup>下</sup>ら<sup>下</sup>へ

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

(カケケ)

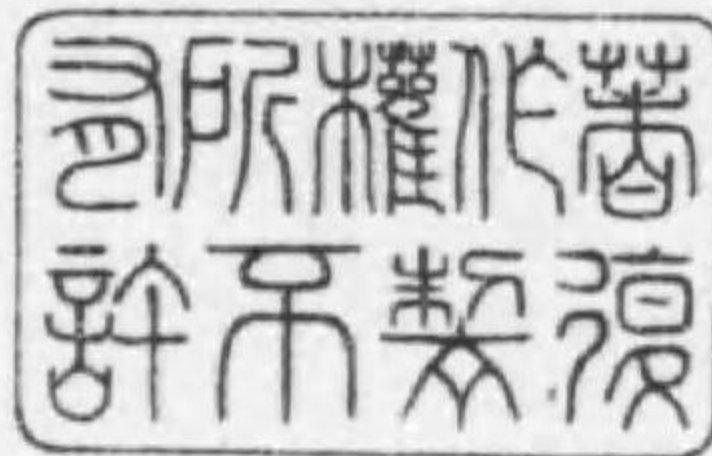
あ<sup>三反目</sup>い<sup>三反目</sup>よ<sup>三反目</sup>く<sup>三反目</sup>ど<sup>三反目</sup>の<sup>入違</sup>患<sup>痛</sup>づ<sup>痛</sup>ら<sup>痛</sup>げ<sup>患</sup>ん<sup>道</sup>だ<sup>道</sup>ら<sup>場</sup>ぢ<sup>場</sup>

青 巫

トこ冬



大正十年六月五日印刷  
大正十年六月十日發行



著者

田崎延次



發行兼印刷者

檜常之助



發行所

東京市神田區錦町壹丁目拾番地  
檜大瓜堂書店

印刷所

東京市麹町區隼町貳拾壹番地  
小林印刷株式會社

(タムム) (ヤムム) (ホムム) (フムム)

アンー美にもこころは  
がぶつ果をえいこそありがたけ  
キよつね  
がぶつ果をえいこそありがたけ  
キよつね

終

